

屋上緑化の防水の種類と 防水の耐根性について

屋上緑化の隠れた脅威『植物の根』から建物をどう守るか？

■防水材と屋上緑化の過酷な環境

建物の屋根や地下には、雨水から建物を守る「防水材」が隠されています。コンクリートの下などに施工されるため、普段目にする機会はありません。しかし、近年人気の「屋上緑化」において防水材は過酷な環境に置かれます。常に湿潤な土壌の下で、たくましく伸びる「植物の根」が防水材を突き破るリスクがあるためです。建物を長持ちさせるためには、水だけでなく「植物の根の力」も防ぐ必要があるのです。



植物の根が防水材を突き破る様子

■「根の力」を測り安全基準を作る

本講演では、屋上緑化を支える防水技術をご紹介します。防水材には塩化ビニル等の柔軟な素材が使われ、建物の動きに追従するよう厚さはわずか1～2mm。この極薄シートが水や根から建物を守ります。しかし、屋上緑化で脅威となる「根が伸びる力」は研究はほとんどなく、笹、タケを用いて根の力を測る独自装置を考案。さらに実際の植物を2年間育てて影響を評価する試験を行い、屋上緑化の「耐根性の安全基準」を検討しました。これらについても紹介したいと思います。



根の力を測定する装置

■概要

日時：令和8年 4月24日(金) 16:15～18:15 (16:10入室開始)

講師：千葉工業大学 創造工学部 建築学科

教授 石原 沙織

参加費：無料

対象：どなたでも参加OK

開催方法：オンライン(Zoom)

申込締切：令和8年 4月23日(木)15:00

C P D：造園CPD認定プログラム(申請中)

🔗 お申込はQRコードから
<https://forms.gle/p8JetZpYQ12hkcq6A>



次回の開催時期は、令和8年 7月を予定しております。また、6月にも別企画の公開セミナーを開催予定です。